

2023年度

科目名称	動物園動物飼育展示論
授業コード	AC366
英語名称	Zoo Animal Management 2
学期	2023年度後期
単位	2.0
担当教員	野田 英樹 (生命環境学部), 藪田 慎司 (生命環境学部)
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	動物園で飼育されている各種の動物について、それぞれの特性を踏まえ、どのような飼育管理展示手法が用いられているのかを具体的な事例をもとに学ぶ。また、各種動物の繁殖管理方法や、実際に動物園に勤務する際に必要となる施設設備、学芸業務、会計についても基礎的知識を学ぶ。
科目に関連する実務経験と授業への活用	公立動物園で飼育展示業務と企画教育業務に携わった経験および環境行政官の経験を活かし、動物飼育の現状や動物に関わる各種法令と動物園の関係について教授する。
到達目標	<p>【科目特有の知識・技能についての到達目標】</p> <p>アニマルサイエンス学科のカリキュラムポリシーである「動物と人との共生」を深く考えるため、以下の目標を設定している。</p> <p>1. 「動物園動物を飼育すること」の具体的な手法について理解する。</p> <p>【汎用能力としての学士力についての到達目標】</p> <p>2. 動物園の役割について、動物を飼育展示する側から深く理解する。</p> <p>3. 日本動物園水族館協会飼育技師認定試験合格レベルの知識と考察力を得ることを目標とする。</p>
計画・内容	<p>(1) オリエンテーション (講義の進め方)</p> <p>(2) 生態展示と行動展示</p> <p>(3) 哺乳類の繁殖 (交配、自然繁殖)</p> <p>(4) 哺乳類の繁殖 (人工保育、社会復帰)</p> <p>(5) 鳥類の繁殖 (ペアリング、環境設定)</p> <p>(6) 鳥類の繁殖 (産卵、人工孵化・育雛、自然繁殖)</p> <p>(7) 爬虫類の繁殖 (季節変化による産卵誘引)</p> <p>(8) 両生類・魚類の繁殖 (体外受精)</p> <p>(9) 動物死亡時の剖検、死因解明</p> <p>(10) 標本作成・レクチャー・ガイド (学芸業務)</p> <p>(11) 動物園の設備 (照明、換気、保温、植栽、給排水等)</p> <p>(12) 動物園と環世界 (藪田)</p> <p>(13) 動物園広報・企画 (マスコミ対応、機関誌発行)</p> <p>(14) 動物園の会計・経理 (動物園運営に係るお金の話)</p> <p>(15) まとめ (テスト)</p>
授業の進め方	講義内容をもとに小テストを出題する。講義資料は小テスト後に配布する。講義中は随時意見を求めるため指名することがある。講義終了後、次回講義までに小テストを提出する。
能動的な学びの実施	講義は双方向性を指すため、常に自身の考えを持つことが望ましい。講義中にも随時発言を求める。
授業時間外の学修	講義終了後は小テストを期限までに実行する。また、最終テストに備え配布された講義資料を確認しておく。
教科書・参考書	村田浩一ら訳「動物園学」、村田浩一ら編「動物園学入門」、新・飼育ハンドブック (日本動物園水族館協会) 等

2023年度

成績評価方法と基準	小レポート（50%）、最終テスト（50%）の合計により判定
課題等に対するフィードバック	小レポートで多くの受講者で理解不足であった点に関しては、次回以降の講義時に補足する。
オフィスアワー	Campusquareを参考のこと
留意事項	小テストでは毎回の講義冒頭で紹介される動物種に関する出題があるため、遅刻をすると回答できなくなる。 前期の動物園動物飼育展示論を受講しておくこと。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	対面授業用資料を映像化し、講義形式の動画に組み込み、配信する。オンデマンド型を基本とする。質疑については、課題提出時に質問ができ、コメント欄での回答を個別に行う。 評価は、対面授業と同一のミニ課題提出により「出席」とみなし、出席点は50点を満点とする。また、中間（8週目および15週目）におけるレポート内容により50点とする（8週目課題で25%、15週目課題で25%）。